

# 【国語（読む領域）・中2・「モアイは語るー地球の未来」】①

## 育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア  
(思、判、表等) 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開について考えることができる。B(1) I  
(学びに向かう力、等) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

## ICT活用のポイント

授業において、本時の課題解決に必要な時間を確保し、より深い読解につなげるため、家庭学習で配信された動画を視聴させるなどして、自分の考えをもたせた上で授業に臨めるようにする。

事前の学習 初読の読み取り確認

### 【つかむ】

単元の課題を共有し、学習の見通しをもつ。

文章の構成や論理の展開に着目して読み、筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。

第3時前 教材文の内容確認（動画活用）

第4時前 教材文の共通点の確認

### 【追究する】

根拠の適切さを確認し、論理の展開を吟味する。

### 【まとめる】

筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、学習を振り返る。

事後の学習 指導事項の定着確認（テスト活用）

## 事例の概要（本時は全4時間中の3時）

- 授業の終末の場面で、次時の学習課題や解決のための手立てを提示する。
- 家庭で、動画教材などを参考に自分の考えをまとめられるよう、次時の課題解決に向けた個でできる学習を提示する。（予習型）

### 【事例におけるICT活用の場面①】

- 本時の学習に向けて、家庭に持ち帰った1人1台端末を活用して事前に動画教材を視聴したり、家庭学習で教材の内容をノートにまとめたりするなどして、授業内の課題追求の時間を確保する。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

- 大型提示装置や学習支援ソフトの共有機能を活用し、グループ内での意見交換の活性化を図るとともに、学習課題である「筆者の論理の展開の工夫」に気付かせる。

注：家庭での取組

# 【国語（読む領域）・中2・「モアイは語るー地球の未来」】①

## 【事例におけるICT活用の場面①】



家庭で確認してきた、「地球の未来」と「イースター島の事例」の共通点をグループで確認しながら、共同編集機能を活用してまとめた。



教科書の記述に戻り、確認しながらグループでの話し合いを進めた。



めあて なぜ筆者は、イースター島の事例を示したのか。



序論の「問い」と結論の「筆者の主張」のズレに着目し、めあてを設定した。

家庭では、筆者の主張である「地球の未来」と「イースター島の事例」の共通点を見つけ、同じ色の線を引いてくる活動を行った。

前時の終末に、本時の学習内容について伝え、家庭学習で個別の活動に取り組ませたことで、自分の考えをもった上で授業に参加できた。個別に考えをまとめる作業時間が削減され、お互いの考えを交流する時間を確保できた。

家庭で予習する際に、適切な動画教材をヒントとして視聴してもよいことを伝えた。



## 【事例におけるICT活用の場面②】

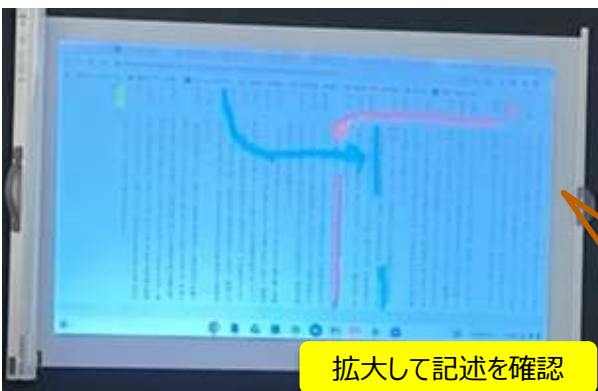
縮小して全体を把握



各グループで話し合った内容を、大型提示装置を使って共有し、文章の構成と筆者の論理の展開について確認した。

教科書では全体の構成は数ページにまたがってしまうため、タブレットの拡大縮小機能を使うことで、全体の把握と部分の確認を、一画面上で瞬時に行うことができた。

提示された全体の構成から、筆者の主張を裏付ける根拠は、本文全体であることに気付くことができた。



拡大して記述を確認

それぞれの共通点を確認するときは拡大を、全体の構成を確認するときは縮小して提示した。

### 【活用したソフトや機能】

- ・学習支援ソフト
- ・電子黒板
- ・動画教材（家庭で活用）

